

自衛隊の諜報機関「陸幕別班」－在日米軍とのもう1つの密約

朝日新聞 谷田邦一
tanida-k@asahi.com

○陸上自衛隊の諜報（インテリジェンス）機関

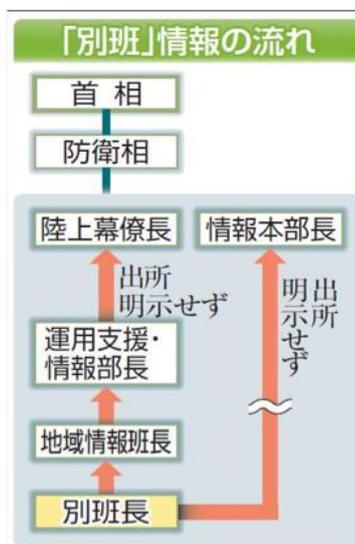
「情報専門部隊」 ← 米陸軍C I C (counter intelligence corps=対情報部隊)

例えば.....

- 調査隊 → 陸海空情報保全隊に改編（03年） → 自衛隊情報保全隊（約1000人）の改編（08年）
- 中央資料隊&方面資料隊 → 中央情報隊（約600人）に改称・改編（07年）
- 101測量大隊 → 中央地理隊 → 中央情報隊に編入（07年）

○組織の名称

陸上幕僚監部運用支援・情報部特別勤務班 陸幕調査部別班 M I S T D I T むさし 小金井.....



公式上は存在しない自衛隊のヒューミント機関

班長は2佐職、総員約30人？

共産諸国にまつわる軍事情報を日本国内で収集

→ 商社員や学者、政治家などの渡航者・関係者などに身分を隠して接近し
 情報収集や依頼、民間人を装いDPEや商社などを経営してカバー活動

拠点はかつてキャンプ・ドレイク（現・朝霞駐屯地）

ソ連（ロシア）、中国、北朝鮮など担当地域別に班編成して活動（阿尾氏）

工作資金の工面 → 日本側の支出元は陸幕2部総括班

日本1：米国3の割合で拠出（平城氏）

収集した情報は米軍情報部門へ

調査学校（小平学校）で要員養成 → 心理戦防護課程

（共同通信）

○「別班」の創設

- 1954年ごろ、在日米軍司令官ハル大将から吉田茂首相あての書簡にもとづき、陸自と在日米陸軍の日米合同情報機関の創設で合意
- 1956年 キャンプ・ドレイク（現・朝霞駐屯地）で訓練開始 M I S T
- 1960年 広瀬栄一・陸幕2部長が太平洋陸軍情報部長をハワイに訪問、第1回の日米情報会議（JA会議）
- 1961年 日米が共同責任で合同工作活動を行うことで協定合意
- 1962年 奥田初代機関長のもと実戦活動スタート
奥田→清野→平城→蒲原.....
- 1965年 「むさし」の呼称を「小金井」に変更

○元隊員の証言

インテリジェンス・ブームの中で自分の経験や知識を明らかにしたい

金大中事件（73年）の黒幕であるかのように書かれたことへの不満と修正

- 1) 山本舜勝「自衛隊『影の部隊』——三島由紀夫を殺した真実の告白」講談社（2001年）
 旧陸自調査学校幹部
 三島由紀夫や盾の会メンバーとの交流、クーデター計画の相談などを暴露
- 松本重夫「自衛隊『影の部隊』情報戦 秘録」アスペクト（08年）

塚本勝一「自衛隊の情報戦——陸幕第二部長の回想」草思社（同）

2) 阿尾博政「自衛隊秘密諜報機関——青桐の戦士と呼ばれて」講談社（09年）
台湾在住

平城弘通元陸将補（故人）

陸士55期 7戦車大隊長、23普連隊長、陸幕2部別班長（1964～66年）
別称「むさし機関」の3代目機関長、東武方面隊2部長などを務め陸将補で退官
不動産業（新宿）で成功

○存否論争

共同通信「陸自、独断で海外情報活動 文民統制を逸脱」2013年11月28日

冷戦時代からロシア、中国、韓国、東欧などに拠点を設け身分を偽装した自衛官が情報活動

↓

政府は存在を否定

岩田清文陸幕長「報道にあったような組織は過去も現在も存在しない」（11月29日の記者会見）

質問主意書答弁書「これまで自衛隊に存在したことはなく、現在も存在していない」（12月10日）

内部告発（14年）「班長が稼業怠慢」 → 能力の低下？

○参考文献

赤旗機捜班「影の軍隊——『日本の黒幕』自衛隊秘密グループの巻」（1978年）

平城弘道「日米秘密情報機関 『影の軍隊』ムサシ機関長の告白」講談社（2010年）

阿尾博政「自衛隊秘密諜報機関——青桐の戦士と呼ばれて」講談社（09年）

高井三郎「知っておきたい情報科部隊の歴史と実情①②」雑誌「丸」（2013年12月号、14年1月号）

松本重夫「自衛隊『影の部隊』情報戦 秘録」アスペクト（08年）

塚本勝一「自衛隊の情報戦——陸幕第二部長の回想」草思社（同）

山本舜勝「自衛隊『影の部隊』——三島由紀夫を殺した真実の告白」講談社（2001年）

黒井文太郎「吉田茂が創設した自衛隊『影の部隊』」週刊朝日09年10月16日号

朝日新聞「語り始めた自衛隊元スパイ」09年7月4日朝刊

同 「ムサシ機関 私が率いた」 10年8月1日朝刊